

市民生活を守り、安心して快適に暮らせる街

※前年度予算に当たる補正予算の金額も含めて記載しています

誰もが生涯現役で活躍できる街

健康アプリ「アルカサル」の本格運用

拡充

9億2,100万円（一般会計予算：8億6,000万円、介護保険会計予算：6,100万円）

40歳以上の市民を対象に、歩くことや健康管理、人と会うことなどの活動を見える化し、楽しみながら健康づくりに取り組めるアプリ「アルカサル」を4月から本格運用します。

▶詳細は10、11ページで紹介しています



安全・安心なまちづくり

人とヒグマのすみ分けを図るなどの対策

拡充

1億9,400万円

市内のヒグマ出没件数の急激な増加を踏まえ、ドローンなどのICTを活用した出没・捕獲対策や、市有施設への電気柵の設置など侵入抑制策を強化します。



町内会・自治会の防犯カメラ設置を補助

拡充

補正予算
3,000万円

地域主体の防犯活動を支援し、地域の防犯力を高めるため、町内会や自治会が不安や危険を感じる場所に設置する防犯カメラの費用を補助します。

雪対策

冬の暮らしを支える除排雪

拡充 補正予算

287億2,200万円

道路や降雪の状況に合わせた除排雪を実施します。また、持続可能な雪対策に向けて、行政が主体となって生活道路の除排雪を行う試験施工の対象地域を拡大するほか、新たな融雪施設の整備を進めます。



物価高対策

給付金を支給

新規 補正予算

197億5,500万円

日々の暮らしや子育てを支援するため、給付金を支給します。

●札幌市物価高対策臨時給付金

食料品などの物価高騰を踏まえ、1人当たり5,000円を支給（令和7年度住民税が非課税が全額減免の世帯には、1世帯当たり10,000円を加算）

▶詳細は9ページで紹介しています

●物価高対応子育て応援手当

0～18歳の子ども1人当たり20,000円を支給（順次支給中）

令和8年度の予算を解説！

4月から市がお金をどのように使うかをまとめた、令和8年度予算が完成しました。

この特集では、予算のポイントや具体的な取り組みの一部を紹介。これからの1年間、どのようにまちづくりを進めていくのか見ていきます。

詳細 財政課 ☎ 211-2212

予算の種類

予算とは、市の1年間の収入（歳入）と支出（歳出）の計画を示すものです。市では、予算を3種類に分けて管理しています。

一般会計	1兆3,185億円	福祉や教育など、基本的な事業を管理する会計
特別会計	4,125億円	国民健康保険や介護保険など、一般会計とは区別が必要な事業の会計
企業会計	3,095億円	地下鉄や水道など、主に料金収入で運営している事業の会計

一般会計の歳入・歳出の内訳

※歳入・歳出共に、()内は前年度比。計数ごとに四捨五入しているため、歳入は合計が一致していません



前年度比

- 個人市民税、固定資産税、法人市民税の増収などにより、市税が264億円増加
- 障がいのある方の就労などに向けた訓練・支援の給付の増額などにより、国庫支出金が126億円増加

前年度比



前年度比

- 障がいのある方の就労などに向けた訓練・支援の給付の増額などにより、保健福祉費が162億円増加
- 満期一括償還準備金、市債償還の利子の増額などにより、公債費が151億円増加

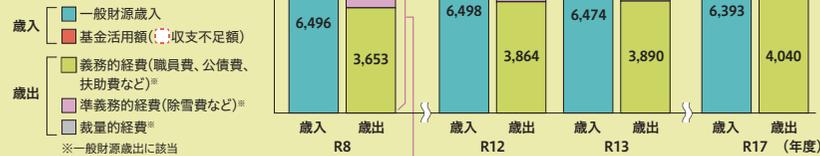
持続可能な財政運営のために

今後10年間の財政推計をしました

令和8年度の予算編成では、「内部経費の徹底的な見直しと節減」と「事業の選択と集中」を基本方針とし、よりめりはりがついた予算編成を実施しましたが、依然として200億円を上回る収支不足が生じており、基金を活用している状況です。そこで、直近の予算・決算に基づき、市税や地方交付税などの市の基礎的な収入である一般財源歳入と、支出のうち市の実質的な負担となる一般財源歳出について、今後10年間の見通しを試算しました。

今後10年間の財政推計(一般財源)の抜粋

※計数ごとに四捨五入しているため、合計が一致していません
 ※令和9年度以降の物価の変動や人件費単価の上昇、景気の変動に伴う税収の増減は見込んでいません



基金とは? 特定の事業や財源が不足したときに使う貯金のことです。26ある基金のうち、財源が不足した時に活用できる「財政調整基金、まちづくり推進基金、土地開発基金のうち活用可能な現金部分」を基金活用額と呼んでいます。

容易に削減することが難しい支出(義務的・準義務的経費)が一般財源歳出の約90%を占めていることで硬直性が高くなっており、予算の見直しを行う余地が狭まっています。

推計の結果

- ・人口減少により税収などの一般財源歳入の減少が見込まれる一方、多くの公共施設の更新時期を迎えることで、建設事業費や市債(市の借金)の返済のための経費である公債費の増加が見込まれ、一般財源歳出は増加していく見込みです。
- ・その結果、5年後の令和13年度には活用可能な基金残高が枯渇する見込みであり、このままでは市民サービスの水準の見直しが必要になる可能性があります。

今後の財政運営について

- 令和9年度以降の予算編成に向け、市では以下の2点に注力します。
- ・令和8年度に引き続き、事務的経費の徹底的な見直しと節減を行うとともに、必要な事業を選択して、優先的に取り組みます。
- ・財政状況の好転に向けて、早急に検討を始めます。令和8年度は、直近の決算や予算の執行状況を見極めながら、今後の見直しの方向性を示すことを検討します。

将来の財政推計を基に予算を見直ししながら必要な投資を行うことで、これからも安心して暮らせる札幌を皆さんと一緒につくっていきます。

市の予算についてもっと知りたい方はホームページをご確認ください

ホームページ



次世代の支援・育成、未来の札幌の成長に向けた投資

※前年度予算に当たる補正予算の金額も含めて記載しています

次世代を担う子どもへの支援

救急医療体制を強化

拡充

18億400万円

夜間休日急病センターで日曜、祝・休日の日中に小児科診療を開始するなど体制の充実を図ります。



学校給食費を支援

拡充 補正予算

71億6,500万円

令和8年度の給食費について、小学校は全額公費で負担し保護者負担額を0円とします。中学校は、物価高騰分を公費で負担し、保護者負担額を据え置きます。



学校施設や冷房の整備

拡充 補正予算

355億6,300万円

老朽化が進んだ学校施設の建て替えや改修のほか、普通教室や体育館などの冷房の整備を順次進めます。

経済成長を見据えた投資

企業立地を促進

拡充

18億2,700万円

経済の活性化や雇用の創出のために、札幌に立地する企業への補助制度を拡充するほか、企業誘致のための積極的なPRを行います。

街の新たな魅力とにぎわいの創出

都心の再開発を補助

拡充 補正予算

204億7,500万円

事業費の一部を補助することで、都市機能を更新し、都心の魅力と活力を高めます。



▲大通西4南地区完成イメージ

持続可能な観光都市としての発展

持続可能な観光地経営の推進

拡充

観光客受け入れ環境整備 1億円 (1億円充当)

観光交通対策の推進

拡充

7,200万円 (6,339万円充当)

快適な交通環境を整えるために、観光地周辺の除排雪や、観光バスの路上駐車対策のための巡回を強化します。また、観光客の手荷物預かりサービスなどを行い、公共交通機関の混雑緩和を目指します。



宿泊税の活用

市内に宿泊する方に負担いただく宿泊税を活用し、観光客だけでなく市民の皆さんにとっても過ごしやすい魅力ある観光地づくりを進めています。

観光資源の磨き上げと付加価値の向上

雪まつりの魅力向上

拡充

8億2,500万円 (3億1,040万円充当)

大通会場のデザインの調和を図るために運営ルールを見直すほか、ロゴやグッズの開発、体験型コンテンツの実施など、さらなる魅力向上を図ります。

